



まちの広報室
ナバリ
市民PRチームがInstagramで綴ったなばりの魅力をご紹介します！
投稿を再編集して掲載！こちらフォローしてね▶ NABARI_PR

ちょうどいい田舎、名張

「古民家カフェこのは」さんは2017年、井手にオープンした古民家を改装したカフェ。もともとは大阪で飲食店を営んでいた内本さん夫妻が、名張市に移住してきて開いたお店です。

名張への移住のきっかけは「たまたま」の連続だった内本さん。最初から名張を希望していたわけではないものの、さまざまなご縁に導かれ、名張へやってくる事になったそう。名張の魅力は「田舎すぎず都会すぎずちょうどいい」ことだと話すお二人。普段の生活に不便もなく、大阪へのアクセスも良い名張を気に入ってくれているようです。

自分たちでできることは自分たちでやる、をモットーに、プロの手を借りながらご自身の手で進めたお店づくり。壁の解体からインテリアまで、できることは何でもやったそうです！

店内は日本の伝統的な家屋の佇まいはそのままだ、こだわりのカウンター席やお子さま連れにも便利な授乳室を設け、木の温かみある居心地の良い空間で、ゆったりとした時間を過ごすことができます。



おでかけしませんか？

赤目四十八滝 門前界限

「赤目小町」としてリニューアル！

周辺の駐車場も無料化されました



赤目四十八滝のにぎわいを取り戻そうと、国からの補助を得て、旅館や飲食・土産物店など10事業者が施設を改修。門前界限は、通称「赤目小町」と名付けられました。

こうした中、赤目滝水族館がリニューアルオープンした4月20日から、従来は500～800円だった赤目四十八滝周辺の駐車場（約300台分）を無料化。赤目滝に関わる若い人たちが赤目の観光地を盛り上げようと奮闘している姿に、土産物店主などが賛同したことで実現しました。

赤目滝入山料を「溪谷保全料」として料金改定

年間パスポートが断然お得！

これまで大人500円、小中学生250円だった赤目四十八滝の入山料を「溪谷保全料」として料金を改定。大人1,000円、小中学生500円になりました（赤目滝水族館入館料を含む）。



滝も水族館もこれ1枚！

一方、地元の皆さんに赤目溪谷の魅力伝えていこうと、年間パスポートが大人3,000円、小中学生1,500円で販売されています。詳しくは、赤目滝HPで



赤目滝HP

赤目四十八滝溪谷保勝会 ☎ 41-1180

じもと再発見 なばりじまん

いざ、織田軍との最終決戦地へ

【伊賀勢最後の砦 柏原城（瀧野城）】

アクセス方法（市観光協会HP）▶



数で圧倒する織田軍は、ほどなく伊賀を制圧しますが、最後に赤目にある「柏原城」に伊賀各地から集結した地侍や老若男女、総勢約1600人が籠城して抵抗しました。当時の城は、石垣や天守閣がある城ではなく、自然の地形を利用したもので、まわく「砦」。柏原城もまた、小高い丘陵で見通しがよく、周囲の川はお堀として機能し、背後が山で攻められにくく、一方で隠れるのもうってつけでした。籠城の末、和睦により城を明け渡し、伊賀全土を焦土とした天正伊賀の乱は終結。信長が討たれた「本能寺の変」の8カ月ほど前のことでした。



城跡に「物見やぐら」を再現するのが夢ですね

柏原城は、土塁や空堀で守りを固めていたあとが今も残ります。ただ、竹林や雑木が生い茂り、その全景を知ることは難しい状況でした。そこで、地元有志で、木の伐採や下草を刈るなど整備を進めています。

いずれは、城跡に物見やぐらや砦の柵を再現するのが夢。城を見上げることができる公園も整備していきたいですね。たくさんの人がこの地を訪れ、その魅力に触れていただき喜んでくれると、私もとっても嬉しく思います。



木々に覆われる柏原城。10年ほど前から地元の有志が整備を進め、今では土塁をぐるりと散策できるまでに。



宮本 篤さん
あかめ里山文化保全会

季節ごとの優秀作品に伊賀牛を進呈！

#名張感動 投稿キャンペーン



広報シティブロモーション推進室 ☎ 63-7402

インスタグラムで「#名張感動」を付けて投稿いただいた優秀作品に、伊賀牛1万円分や特産品などを贈呈！詳しくは、市HPで



観光産業推進キャラクターが誕生！

「百地山椒太夫」(ももちい)

ももちさんしょうだゆう 百地山椒太夫は赤目四十八滝溪谷に住むオオサンショウウオの男の子で、通称は「ももちい」。忍術の達人で、滝柄のスカーフを首に巻き、こけの妖精「コケ千代」と一緒にいるよ。土産物への活用など詳しくは、市HPで



ももちさんしょうだゆう
百地山椒太夫
通称：ももちい

観光交流室 ☎ 63-7648